

第13回日本統合医療学会大会

プログラムが決定しましたので、概要を報告します。

基調講演 “高齢社会と統合医療”

井村 裕夫（元京都大学総長）

井村先生は、京都大学で内科学（血液学）の教授、総長を経て、日本科学技術会議の議員として、日本の科学技術の大綱をまとめられた、医学のみならず、科学技術の日本のリーダーです。

会長講演 “世界における統合医療の現状”

渥美 和彦（日本統合医療学会理事長）

世界における統合医療の現状の中で、わが国が今後、何を行うべきかを講演します。

特別講演

1) 高久史麿 “いままでの医学、これからの医学”

高久先生は、東京大学で内科学（血液学）の教授を経、自治医科大学の学長、現在は、日本医学界の会長で、わが国医学界の重鎮です。

“医学の過去、および未来”について講演します。

2) 山折哲雄 “ ”

京都大学の教授を経て、国際日本文化研究センターの所長を務められた、哲学、宗教学のわが国の一人者です。癒しにおける医療と宗教の話を期待しています。

3) 南裕子 “ ”

日本、および国際看護協会の会長を務められ、近代姫路大学の学長で、わが国の看護界の代表です。統合医療の第一線における看護師の役割は、きわめて重要です。

シンポジウム

1) 看護と統合医療

手当ての川嶋みどり氏の司会で、ホリスティックナーシング、音楽療法、乳房マッサージの現場の声を聞きます。

2) がんに対する統合医療的アプローチ

がんの統合医療の帯津良一氏、がんの外科手術の武藤徹一郎氏の司会で、

細胞免疫、ゲルソン療法、高濃度ビタミン、痛みの緩和の現状と今後の展開をまとめます。

3) 4) CAMのシンポ

統合医療は、近代西洋医学とCAMとの統合により、患者中心の医療で、CAMの重要な意義は言うまでもありません。今大会においても、学会として、CAMのシンポジウムは、最重要の課題として取り上げました。第一部と第二部に分けて、第一部は、主として伝統医学、第二部は、伝統療法を取り上げます。

司会は、阿岸鉄三、仁田新一、佐藤信紘、川島朗という、学会の中樞人材にお願いしました。

第一部では、漢方、中医学、アーユルヴェーダ、鍼灸、ホメオパシー、サプリメント、ハーブなど、第二部では、ヨーガ、カイロプラクティック、医療気功、音楽療法、温泉療法、オゾン療法などを取り上げ、各分科会の会長に依頼し、各分野の現状と将来について、簡潔にまとめます。

5) 統合医療の現状と未来

渥美和彦理事長と医療改革会議の梶原拓議長の司会で、大会のまとめとなります。

永田勝太郎氏により、大学における統合医療の試み、蒲原聖可氏により、欧米、小野直哉氏により、アジアの統合医療の現状を報告します。

次いで、山根隆治氏により、政府の立場、有元裕美子氏により、市民の立場より、統合医療について発表します。このシンポは、聴衆の参加による総合討論に展開したいと考えています。

さらに、対談として、福岡博史、寺川国秀の両氏による、“歯科における統合医療”および、久保千春、中井吉英氏による、“心身医療”の対談を計画しています。いずれも、この分野の第一人者であり、優れた論客によるディベートであり、統合医療における位置付けと、今後の展開についての対談を期待しています。

尚、鼎談、“生活習慣病を考える”を都合により解消し、“認定医・師・療法士”の第一回会議に変更しました。学会における認定医・師・士の資格合格者が現在、約200人になり、今後の活躍が期待されています。相互の連携を保ち、社会の要望に如何に答えてゆくか、データバンクの設定など、組織化の方向を討議する予定です。

尚、前日に予定されていた国際会議は、海外演者の事前のVISA取得の問題などがあり、来年3月に延期することになりました。

あわせて、最終日に予定していた、第3回認定資格試験も来年1月11日（月）に延期をいたします。（第6回認定資格セミナーは12月20日（日）に行います）

以上、大会の概略を説明しました。今後、このような情報伝達は続けてゆきたいと考えています。

大会出席者の登録も、毎日のように増加し、300名を超えました。

会場は、安田講堂という歴史的遺産の建物ですので、人数が制限されています。定員になりましたら、お断りをいたします。

当日参加は、お断りする予定ですので、できるだけ早く登録されるように、お勧めいたします。

大会組織委員会事務局